

英国 CMI 認定サステナビリティ（CSR）プラクティショ ナー資格講習（詳細説明）



SustainaVision

*Support the Development &
Promotion of Sustainable Thinking*

目次

はじめに.....	2
タイトル	2
定員	3
主催	3
講習について	3
講習の構成	4
対象者	5
受講のメリット	5
日本における本資格講習参加者の声	7
英国 CMI 認定 サステナビリティ CSR プラクティショナー資格保持者.....	12
講師 下田屋毅.....	13
ゲストスピーカー ニコス・アヴロナス氏	15
英国 CMI とは	16
CSE とは	16
お申込み・お問い合わせ	16
よくあるご質問（FAQ）	17

はじめに

世界を取り巻く状況は刻々と変化し、昨今では特に新型コロナウイルス（COVID-19）の拡大から企業活動へ深刻な影響を与えています。そしてメガトレンド/グローバル・リスクである気候危機、人口爆発、資源不足、水不足、エネルギー・燃料問題、貧富の格差拡大、食料問題など様々な課題を抱えており、その中での企業のサステナビリティへの取り組みがより重要性を増してきています。

現時点では、それらを踏まえて、サステナビリティに関連する国際規格 ISO26000、統合報告フレームワーク、ビジネスと人権に関する指導原則、GRI スタンドなど原則や基準の発行、紛争鉱物、パーム油、綿花、サトウキビ、大豆などの原材料調達やそれらの労働環境、人権課題を含むサプライチェーンの問題、持続可能な開発目標（SDGs）、サーキュラー・エコノミー、パリ協定など海外では企業を取り巻く状況が変化し、企業はその対応に迫られています。

日本では、国内市場が縮小し、グローバルに事業を展開する企業がこれまで以上に増加することが予測される中、このような日本国内とは違ったグローバルなサステナビリティの視点が今後さらに高まると考えられます。日本企業が、高いレベルのサステナビリティ活動を実践してグローバル・リーダーシップを取るにはどのようにすればいいのでしょうか？

ステークホルダーの対応、海外の現地法人や生産拠点などのサプライチェーンに関わる対応、環境問題への配慮や二酸化炭素排出量削減への対応という点において、十分といえるでしょうか？ 人権や人種・文化の多様性に対する配慮など、日本社会の中では取り上げられず気づきにくいテーマもあります。さらに企業は持続可能性と社会的責任の両立を実現していかなければなりません。そのために必要不可欠なのは、経営トップがサステナビリティに関する理解を深めサステナビリティを戦略的に実施していくこと、そして事業部門とサステナビリティ推進担当部門との一層の連携です。

本資格講習は、英国を拠点として活動するサステナビリティ・コンサルタントの下田屋が主任講師として、欧州で入手している欧州先進企業のサステナビリティの最新情報やビジネスのケースをお伝えしながら、上述の COVID-19 の対応を含めた国際情勢下で、企業が生き抜く術としてサステナビリティを戦略的に実施する方法、事業に統合する方法を学んでいただくことを目的としています。

また、本資格講習は、英国の主要団体 CMI の公認資格であり、世界に通用するサステナビリティ資格です。この資格の取得により、世界との扉を是非開いてください。

タイトル

■ 英国 CMI 認定 サステナビリティ（CSR）プラクティショナー資格講習

開催場所

- 東京都港区 (詳細は別途講習参加者に連絡いたします)

定員

- 18名

主催

- サステナビジョン社 (Sustainavision Ltd : <http://www.sustainavisionltd.com/>)

英国カンパニーズハウス、イングランド&ウエールズ登録 [Company No. 7477687](#)
[在英日本商工会議所](#)会員企業

講習について

- 期間 : 2 日間
- 講習前と講習後に課題があります。
- 講習後の課題の合格をもって、英国 CMI 認定サステナビリティ(CSR)プラクティショナー資格が付与されます。
- 講義はすべて日本語で実施されます。講師やゲストスピーカーが英語で講義をする場合には、通訳が付きます。

講習料

カテゴリー	(表示額 1 人当たり)
通常料金（個人）	175,500 円
個人：アーリーバード割引 10%	157,950 円
個人：スーパーアーリーバード割引（早割）15%	149,175 円
会社割引（1 社 3 人以上：15%）	149,175 円
NGO/NPO, 大学関係者、中小企業割引：20%	140,400 円

講習の構成

- 内容は、レクチャーとグループワークがバランスよく織り交ぜられた集中プログラムです。
- 講師と受講者の双方向でのやり取りで進められ、より効果的に学習することができます。

<トピック>

- ① サステナビリティ（CSR）とビジネス事例
- ② サステナビリティに関する現在の世界・地域の法律
- ③ サステナビリティ（CSR）戦略（事業に統合する方法）
関連する基準とガイドライン（国連グローバル・コンパクト、GRI スタンド、CDP、SROI）
- ④ 責任あるマーケティングとどのようにグリーン/ブルー/SDG・ウォッシングを回避するか
- ⑤ サプライチェーン・マネジメントとカーボン・マネジメントにおけるサステナビリティの重要性
- ⑥ GRI と IIRC をベースにしたサステナビリティ（CSR）報告と統合報告
- ⑦ 外部保証、報告におけるコミュニケーションの方法と信頼性の獲得
- ⑧ サステナビリティ（CSR）プラクティショナーの役割と今後の動向

対象者

- 企業代表者、CSR/サステナビリティ・環境担当部門長
- CSR/サステナビリティ・環境マネジメント担当部門
- 人材開発担当部門
- マーケティング担当部門
- PR・広報宣伝・IR 担当部門
- コミュニケーション担当部門
- 海外事務所・工場・支店において CSR/サステナビリティを今後活発に展開することを計画している CSR/サステナビリティ担当部門・担当者
- CSR/サステナビリティを本格的に導入しようとしている企業の CSR/サステナビリティ担当者
- CSR/サステナビリティの包括的な知識の必要性を感じている方

受講のメリット

- ✓ グローバルリーダーにおける CSR/サステナビリティの資格講習です。
- ✓ 英国の主要団体 Chartered Management Institute (CMI) から資格が付与されます。この資格は世界で認識される資格です。 <http://www.managers.org.uk/>
- ✓ CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)/サステナビリティの幅広い内容が網羅されており、世界を見据えて CSR/サステナビリティの観点から何が企業にとって重要なことを学ぶことができます。
- ✓ 内容は、レクチャーとグループワークがバランスよく織り交ぜられた集中プログラムです。講師と受講者の双方向でのやり取りで進められ、より効果的に学習することができます。
- ✓ 講習では、グローバルなケーススタディを活用し、グループワークを通じて実際に国内外で CSR/サステナビリティの実践が問われる場面をディスカッションします。
- ✓ 主任講師は、欧州・ロンドンに拠点を置き、最新の CSR/サステナビリティ情報を入手していますので、本講習を通じて、世界の先進的な知識を得ることができます。

- ✓ ゲストスピーカーは、シカゴ、ブリュッセル、アテネに拠点を持つ CSR コンサルティング会社 Centre for Sustainability and Excellence (CSE)社の代表取締役であるニコス・アヴロナス氏が務め、海外 CSR の状況についてのプレゼンテーション、Q&A セッションを受講できます。
- ✓ 包括的なスキルを得ることができます。
- ✓ ステークホルダーへのアプローチを学ぶことによって、ステークホルダーからのレベルの高い信頼性を得ることができます。また、ビジネスの透明性の理解・実践することによって、トリプルボトムラインをベースとした企業責任を効果的に推進していくことができます。
- ✓ サステナビリティ(CSR)プラクティショナー資格を取得することにより、組織内外での CSR 計画・戦略・プログラムをより効果的に実施することができるようになります。
- ✓ 2 日間の講習を通じて様々な業界の CSR 関係者とのネットワーク構築をすることが出来ます。
- ✓ 資格取得後は、世界と日本それぞれのサステナビリティ CSR プラクティショナー資格保持者限定の情報交換サイトへの登録ができます。
- ✓ 日本のサステナビリティ CSR プラクティショナー資格保持者限定の情報交換用メーリングリストに登録できます。

日本における資格講習参加者の声

（順不同、敬称略）

- 自分が普段業務上で関わっていないところも含め、体系的に、企業に求められるサステナビリティについて学べて、大変勉強になりました。特に日本と欧州の社会的背景の違いや、欧米の事例紹介（動画、サステナビリティレポート等）が知らない内容が多く、グローバルなサステナビリティの動きをより深く理解できることができたと感じています。これらは単純に日本で育った私のようなものが、欧米の方の講演をオンラインで聴くだけでは気づかない内容であり、下田屋様やゲストスピーカーの山崎様のような日本と欧州の違いを理解し真の架け橋となっていたいただける方がいらっしゃることは、私達受講者のみならず、日本社会にとっても非常に有益なことだと感じました。比較的大規模な企業同士のネットワーキングには日頃から国連グローバル・コンパクトの分科会を活用させて頂いておりますが、今回アカデミアの方や、中小企業のキャパビルに携わる方々が受講者としていらっしゃることで新たな接点を持てたのも貴重でした。（中島 素子, 日本電気株式会社サプライチェーン改革推進部プロフェッショナル）
- サステナビリティや SDGs に関する書籍を勉強していく中で、そのオリジンである英国や世界の歴史、現状を知りたいと思うようになりました。今回の内容はまさに私が最も学習したいと思っていた内容でした。研修は、講義、ビデオ、グループワークの配分がとてもよく、理解し易かったです（特に最後に学んだ現代奴隷制は衝撃を受けました。）また、今後サステナビリティを推進していく上で、補助資料にある「ステークホルダー・エンゲージメント」や「サステナビリティ戦略の概要図」はとても役に立ちます。頂いた資料を、仕事はもちろん、自己の成長のためにも活かしていきます。本当にありがとうございました。（渡邊 幸子, ウエルシアホールディングス株式会社 総務部 SDGs 推進担当部長）
- サステナビリティに関して体系的に学ぶことができただけでなく、特に国内でビジネスをしていると触れる機会が少ない人権、人種、文化の多様性等に関するテーマについても多くの事例や知識を習得でき、理解を深めることができたこと・異なるキャリアを持つ参加者とのディスカッションの機会も多くあり、新たな視点や気づきを得ることができただけでなく、自身の至らない点も痛感することができ、非常に有意義な時間を過ごすことができた。下田屋様をはじめ、今回の講習に参加された方々と出会い、ともに学び、非常に濃い時間を過ごせたことにより、本当に良い経験と刺激を頂けたこと（橋本 憲, サステナビリティ・パートナーズ）
- CSR に関する知識を体系的に学べ、かつ、各国や国際的な動向についても最新の情報を得られる機会は現在の日本国内では非常に限られている（ほとんどないのでは）と感じるので良かった。加

えて、自身の属する業界の枠を超え通常交わることのないような他業界他業種の参加者と同じテーマで議論するという点も貴重な機会であり、大変面白く刺激になった。一方通行の講義だけでなく、参加者同士での意見交流やワークショップが講習のなかに多く組み込まれている点は、一般的な社会人講習のスタイルと比較しても珍しく有意義であったと感じる。下田屋先生のお人柄や運営側のインターンの学生さんにも好感を持って、オンライン環境であるにもかかわらず、和やかな良い雰囲気ですべてを得られたこともとても良かった。（竹中はる花、フリーランス）

- サステナビリティ経営の推進にあたって、この半年悩みながら進めていた点（特に経営層やステークホルダーとのコミュニケーション）の進め方や方向性が間違っていなかったことが分かり、安心しました。また、参加者の方々とのケース検討やディスカッションを通して、理解がより深まりました。（山田美夏，三井情報株式会社 広報・CSV 戦略推進部 エンゲージメント推進室 兼 人事総務統括本部 グループ人事総務部人材開発室）
- CSR, ESG, Sustainability のそもそもについて理解を深める事が出来た事。Group Discussion/Case Study が勉強になった事。今回参加したメンバーの皆様が、非常に前向きで、意欲的/Aggressive 感があり、様々な意見があった事など、包括的に学べたことから人脈づくり含め得たものが多かった。（谷口裕次郎，証券会社）
- 最新のサステナビリティに関する知識を体系的に学ぶことができる貴重な機会となった。また他業種の方とのディスカッションを通して多くの気づきを得ることができた。（片岡 正光，TBS イノベーション・パートナーズ合同会社 代表パートナー）
- サステナビリティを体系的に理解することができて良かったです。今までほとんど独学だったので、もっと早く受けていれば時間短縮につながったのではないかと考えます。学んだことを今後の活動へさらに活かして参ります。ありがとうございました。（真次成昌，株式会社ノーリツ 資材購買本部 原価企画部 調達基盤指令グループ）
- ステークホルダーの特定やマテリアリティの洗い出しなど、サステナビリティを経営に統合する上で必要なさまざまな手法を経験できたこと、新たな情報をキャッチアップできたこと、異業種のものを見方を知ることができたこと。この3点が、今回の研修で得た大きな成果です。その後の課題も含め、サステナビリティについて考え続ける濃厚な時間を過ごしました。（前田建設工業株式会社 CSR・環境部 渡辺 千尋）
- サステナビリティを取り巻く潮流やその背景、意義について理解出来、またマテリアリティ選定、ステークホルダーマップなど企業や組織が活動を進める上で参考にすべき具体的な方法を確認することが出来ました。また、講習では他社、他業界の方と意見交換や情報共有をすることが出来、とても有

意義でした。（三菱重工業株式会社 バリューチェーン本部バリューチェーン革新部環境企画グループ 関 里美）

- サステナビリティに関するキーワードを内容まで含めてご説明いただき、理解が深まったこと。深めるための考え方（ex. ステークホルダーの評価や、CSR 統合のステップなど）を学べたこと。また人脈が作れたことが良かったと思います。（株式会社ベネッセホールディングス ブランド・CSR 部 CSR 課 大石英司）
- 興味あるものの全くの素人の当人にとって、Logical かつ Practical、そして具体的な事例を用いて、Program 設定の基本的な組み立て方、考え方、そして用語の意味を教わることができました。また 18 人という適度な人数も会話が良く聞こえて良かったと思います。（Dole Asia Holdings PTE. LTD, Dole Packaged Foods Asia, Vice President & Chief Strategy Officer, 大場 恵介）
- 今回の講習を受講して、CSR に関する新たな概念を学ぶことができたこともさることながら、今まで個人的に勉強してきた知識を体系化できたことが有意義でした。今後の業務に大いに参考になると思います。有難うございました。（株式会社日清製粉グループ本社 CR 室室長 南澤 陽一）
- 企業内でサラリーマンをしながら、志を持って行動されている参加メンバーの方々との出会い自体と、グループディスカッションも重視した構成で、各メンバーのバックグラウンドの違いを認識し、活かすことができる点。また全体増を包括的に学ぶ中で、自分の知識興味の偏りを認知し、今後調べるきっかけを得た事。（スリーエム ジャパン株式会社コンシューマー製品マーケティング部 石橋 愛子）
- 無知であった事項については新しい知識として、理解しているつもりであった事項についてはその位置づけと他の事項との関連性についてインプットすることができ、それらの体系的な理解が得られた。また、書物等のみからではわからない重要ポイントを講師から教えていただくとともに、他の実務担当者からの視点や経験を耳にすることができた点が良かった。（スクワイヤ外国法共同事業法律事務所 エアクラフトファイナンス/コーポレートロー パラリーガル 黒川 奈々）
- 体系的に学べたことはもちろん、人権などどの分野に関わることかという面もカバーして頂き、曖昧でわかりずらいと思っていた CSR の定義が明確になりました。また社内での巻き込み方、推進するにあたっての現状と課題も挙げていただいたことも参考になりました。（Kokuyo International Malaysia Sdn. Bhd. Marketing Manager 飯島 光代）
- 体系的な理解ができ、自分の知識が足りない分野が明確に。他の参加者の視点や、業界による違いが明確になった。時代の中の今の状況や、世界の中の日本など、立体的に感じることもできた。（株式会社ベネッセホールディングス ブランド・CSR 部 課長 泉 ひろ恵）

- 講師がとても人格的に優れており説明を受け入れやすかったです。またハードルなく議論に皆が参加しており、双方向でコミュニケーションを多くとれることが非常に有益でした。事例や外部ゲスト講師の話も非常に興味深かったです。（株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズ 代表取締役社長 白藤 大仁）
- CSR とサステナビリティの深い意味まで目から鱗のわかりやすさだった。専門外であるビジネスの専門用語も、わかりやすく解説していただき助かった。一流企業の第一線を行く方々と考えやアイデアのシェアができてとても参考になった。（青森明の星短期大学 経理研究所所長 入試広報センター長 教授 山口 章）
- ビジネスにおいてサステナブルを切り口とした取り組みを行うにあたり、あるべき方向性や、やらなければならない事を体系的に学ぶことが出来た。（YKK 株式会社 商品戦略室 室長 大喜多 一範）
- 単なる知識だけでなく、推進者としてどう動いていくべきか実用的な話も多く参考になりました。Group Work や他の人との意見交換の場が多かったのも良かったです。（株式会社リクルート サステナビリティ推進室 サステナビリティ G 斉藤 あや）
- 通常のセミナーでは得られない、サステナビリティ（CSR）全般に関する実践的な課題解決方法や最新動向を体系立てて学ぶことが出来、非常に良い機会でした。会社のサステナビリティ部門が持つ専門知識の「ベンチマーク」としても活用できると実感しました。（協和発酵キリン株式会社 CSR 推進部 企画推進グループ木村 聡）
- 業務の中で断片的に身に着けた知識を CSR のトレンドの発信源である欧州の考え方にもふれながら体系的に整理できた。同じ悩みを持つ他社の方と思いを共有したり、知恵を出しあえた。（ハウス食品グループ本社株式会社 CSR 部 環境活動推進課 芝原 佳希）
- 世界的なトレンドを判ることが出来ました。また、受講に当たってはサステナビリティ（CSR）の体系を学ぼうと思っていましたが、更に上位の経営戦略との繋がりもクリアになりました。当社が実施していくべきこと、進むべき、着手すべき事、デザインを描いていくことが出来そうです。また、それらへのアプローチのヒントを沢山得ることが出来ました。考えをまとめるのにとっても役立ちました。（日総工産株式会社事業本部 営業部 営業企画課 水谷 洋司）
- 体系的に CSR について学べたことで、頭の中が整理されたと思います。普段なかなか時間を取って学べていないことも、質問をさせて頂きながら理解を深められたと思います。視覚的に事例を確認できたことも、大切だったと考えます（GW や video）（武田薬品工業株式会社 市川はるひ）

- 最新のサステナビリティ関連情報やグローバル動向をまとめて提供していただき、自分の知識や捉え方のアップデートと整理をすることが出来ました。また自社以外からご参加の様々な方々との情報共有や意見交換を通じて新たな刺激を受け、サステナビリティ推進に対する自分のアプローチを見直したり、考えをまとめることにとっても役立ちました。（株式会社 JVC ケンウッド 執行役員 飯塚 和彦）
 - CSR の仕事をして 4 年になります。自分の知識を整理し、最新の先進事例や動向を知る事ができました。本やテキストで学んだ事を、講師の豊富な知識に裏付けられた内容と共にレクチャーで学べたことは大きいです。また、過去の有名な事件を映像で振り返る事ができた事で、更に理解が深まったと思います。CSR・サステナビリティへ取り組んだキャリアを問わず、関わる全ての方に受講して欲しい内容です。（リコージャパン株式会社 経営企画事業本部コーポレートセンターコーポレートコミュニケーション部社会貢献推進グループ兼広報グループ 太田 康子）
 - CSR、SDGs を体系的に理解し、個別のテーマは別として、その目的とビジネスへの応用の方向性が確認できた。（井関産業株式会社 代表取締役 安並 潤）
 - CSR の最新動向をグローバル規模で体系だてて学べる機会が初めてでしたので、断片的だった知識が繋がったことと、何となく思い込んでいたことが誤解だったり過去の内容だったとクリアになりアップデートされました。（フィリップスエレクトロニクスジャパン 徳永恵美子）
 - 体系的に CSR を学べたことで新しい気づきがありました。CSR 支援会社として企業や団体の皆様との協働や新たな取組みを進めていく上で、ブレイクスルーポイントとなる要素を数多く発見できました。とても濃密で楽しい 2 日間の研修でした。（株式会社 a2media IR コミュニケーション事業部 ディレクター 砂川祐恵）
 - 最新の CSR に関するテーマの背景にあるメガトレンドを理解できたこと。欧米の先進企業の具体的な業務への反映方法を下田屋さんのお話しや映像、資料などから知ることができたこと。色々と真似をして実践してみたいと思いました。（東京ガス株式会社広報部 CSR 室主任 鉢村 彩）
 - CSR・Sustainability に関する包括的な知識・トレンドを効率的に学ぶことができた。実際に企業の CSR 部門で実務に取り組む方々の意見やお話をお伺いすることができた。自分として自社としてどう CSR・サステナビリティに関わっていけば良いか、具体的なイメージが持てた。下田屋さんの時間配分のメリハリとポイントを絞った説明の分かりやすさで、終日あきることなく受講できた。質問の時間を積極的に割いていただけたので、理解が深まった。（ハーチ株式会社代表取締役 加藤 佑）
- [その他の受講者の声はこちら](#)

英国 CMI 認定 サステナビリティ CSR プラクティショナー資格保持者

[資格保持者一覧（日本）](#)

[資格保持者一覧（世界）](#)

講師 下田屋 毅



下田屋毅 (サステナビリティ代表取締役、CSR/サステナビリティ・コンサルタント)

1991 年 川崎重工業株式会社に入社。工場管理部にて人事・労務・給与・社会保険・福利厚生・教育・労働安全衛生等を担当。労働安全衛生主担当として、「安全衛生管理要綱」作成、「安全内部監査制度」を企画・導入。事業部の PR・広報宣伝強化プロジェクトのプロジェクトマネージャーとして、PR、広報宣伝、営業拡販、顧客・代理店との連携強化の為に諸施策を実行。中国プロジェクト参画。2002 年出向にて、環境ビジネス(RPF 製造：株式会社エコ・マイニング)新規事業立上げメンバーに選出、営業戦略・マーケティングを企画立案。

2007 年 9 月より英国 East Anglia 大学に留学。2008 年 8 月同校 MSc in Environmental Assessment and Management 修了。環境影響評価、環境マネジメントシステム、リスク管理、廃棄物管理、ライフサイクルアセスメント、カーボンフットプリントについて学ぶ。

2008 年 10 月英国 Lancaster 大学に進学。2009 年 9 月同校 MBA 修了。2010 年 12 月日本での職務経験・知識、また英国の環境科学とビジネスの修士で得た知識をベースに、CSR・環境のコンサルティング会社「Sustainavision Ltd.」を英国ロンドンにて設立。

2011 年 7 月より国際交流基金ロンドン CSR セミナーシリーズ・プロジェクトアドバイザー。

2011 年 9 月 欧州 CSR コンサルティング会社 [Centre for Sustainability & Excellence \(CSE\)](#) 社と戦略的パートナーシップを締結 2011 年 12 月より CSE 社の [アドバイザーボードメンバー](#) に就任。

2017 年 1 月 [一般社団法人ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステナブル・サプライチェーン \(アスク\)](#) を日本にて設立、日本企業のサプライチェーン上の人権、労働問題、環境問題の課題解決に向けた取り組みを海外のイニシアティブとの連携を行いながら進めた。

2018 年 [一般社団法人 日本サステナブル・レストラン協会](#) を英国 Sustainable Restaurant Association との連携により日本に設立。飲食店がサステナビリティのリーダーシップを発揮し、生産者、消費者、そしてフードシステム全体を持続可能にするための仕組みを構築するために活動を行っている。

<執筆・連載>

- [「Sustainable Brand Japan SB-J コラム 下田屋 毅」](#)
- [「Sustainable Japan ～下田屋毅氏の欧州 CSR 最新動向～」](#)
- [「志のソーシャル・ビジネスマガジン オルタナ：欧州 CSR 最前線」](#)
- [「オルタナ・オンライン：欧州 CSR 最前線」](#)
- [「東洋経済オンライン ここがへんだよ日本の CSR」](#)
- [「新・CSR 検定 3 級公式テキスト」](#)
- [「新・CSR 検定 2 級公式テキスト」](#)
- [「日本復活を本物にチャタムハウスから世界へ」 5.5.5 日本企業のガバナンスへの社会的責任投資の影響](#)
- 他執筆多数

ゲストスピーカー ニコス・アヴロナス氏



ニコス・アヴロナス氏（CSE 代表取締役兼創設者）

ゲストスピーカーは、シカゴ、ブリュッセル、アテネに拠点を持つ CSR コンサルティング会社 [Centre for Sustainability and Excellence \(CSE\)社](#)の代表取締役であるニコス・アヴロナス氏が、海外からスカイプにて、CSR/サステナビリティのトレンドについてプレゼンテーション、Q&A セッションを実施します。

ニコス氏は、2010 年に信頼できる企業行動を奨励する Trust Across America により「信頼できる企業行動におけるトップ 100 人のリーダー」に選ばれました。彼は、国際的に「持続可能な発展」や CSR に関するトピックについてのスピーカーとしてもよく知られており、北米、ヨーロッパ、中東及びアジアの 20 カ国において講演を行ったり、専門家を育てることに尽力をしています。

ニコス氏は、サステナビリティ、CSR、企業管理、企業倫理と業務管理の専門家です。この 15 年間、彼は、フォーチュングローバル企業 1000 を含む世界を牽引する企業である BP、Dell computers、Mc Cain、DHL、Lafarge、Deutsche Post、HSBC、the Bank of Cyprus、DIFC、the European Investment Bank、the Lloyds Banking Group に対して数々のプロジェクトを実施してきました。さらに、世界で活躍する 5000 人以上の経営者に対してのトレーニングやコーチングを行ってきました。

ニコス氏は、世界中の企業の議長や助言者の一員として貢献するとともに、様々なビジネストピックに関してワークショップや国際会議をコーディネートすることにも携わっています。

「Management Models for the future」（2009 年発刊）の著者の一人として、「責任ある競争」について分析をしています。彼のサステナビリティ、CSR、企業統治、気候変動についての記事や調査は、国内外の雑誌や新聞に取り上げられており、また CNBC、CCTV（China Central TV）、Voice of America など様々なメディアからもインタビューを受けています。

英国 CMI とは

[Chartered Management Institute \(CMI\)](#) は、英国の主要団体として、毎年 3 万人以上の研修受講生を排出している、資格認定プログラムにおいて、より高い基準を持つ世界的な組織です。CSR は、それ自体リーダーシップについてであり、適切なマネジメントについてのものであり、CMI はこの上で、より正しく、そして認知され、信頼できる組織です。

CSE とは



[Centre for Sustainability and Excellence \(CSE\)社](#) は[英国 CMI の公認](#)トレーニング団体として、このサステナビリティ (CSR) プラクティショナー資格講習を、欧州・北米・中東・アジアにて開催しています。

CSE 社はサステナビリティ・CSR・持続可能な開発に焦点を当てたグローバル戦略コンサルティング、教育訓練を実施しており、シカゴ、アテネ、ブリュッセルに拠点があります。

CSE 社は世界 5 大陸 8,000 人のエグゼクティブに対して CSR・気候変動関連のトレーニングを実施した実績があります。また、CSE は国際的な専門家やコンサルタントのネットワークを持ち、団体や政府、そして研究所に対して、ステークホルダーの価値を高めるためのユニークで進んだサービスを提供しています。

[お問合せ・お申込み](#)

よくあるご質問（FAQ）

Q1：現在、直接の業務としては CSR/サステナビリティの担当はしておりません。受講は可能でしょうか？

本 CSR 資格講習は、CSR/サステナビリティ担当部門の方が多く受講されますが、CSR/サステナビリティについて知識を得たい、これからしっかり実施していきたいなど、CSR/サステナビリティに携わってこなかった方にもご受講いただいております。

CSR/サステナビリティ担当部門からご受講される方でも新しく CSR/サステナビリティ部門に配属され、これから CSR/サステナビリティを勉強されるという方もいらっしゃいますし、海外では、CSR/サステナビリティ部門に配属された方にこの資格を最初取得させることをしている企業もあります。

CSR/サステナビリティの業務に携わっていない方は、CSR/サステナビリティ業務に携わっている方より、理解に時間がかかるかもしれません。しかしながら講習は基本的な CSR/サステナビリティの知識についても触れていきますので、順を追って理解することができると思います。またわからないことがあれば講習中、または、休み時間に質問をいつでも受け付けていますので、理解できなかつたところについては聞いていただければと思います。

Q2：受講料はどのように支払うのですか？

受講料は、「銀行振り込み」か「Paypal（ペイパル）を通じたクレジットカードでのお支払い」をお願いしています。「銀行振り込み」を選択される場合には、こちらから当社の銀行への振り込み先をお知らせいたします。また、ご要望の場合は、請求書を発行いたします。

「Paypal（ペイパル）」を通じてクレジットカードでお支払いをされる場合には、別途 Paypal 使用料を加算してお支払いいただくこととなりますことご了承ください。

Q3：英国 CMI 認定サステナビリティ（CSR）プラクティショナー資格の更新要件について教えてください。

資格取得日から 12 か月以内に、社内外の CSR に関連の研修・セミナー・ワークショップへの参加（16 時間に相当する研修）が必須となります。

これら研修・セミナー・ワークショップは、社内外関わらず、また、どの団体の主催するものでも OK です。資格取得後、12 か月後に、当方からのメールにて確認させていただくこととなります。（所定の報告書にて提出が必要となります）

資格更新料は 100 ユーロの費用がかかります。

また、もしこの期間に CSR 関連のセミナー（16 時間相当）に参加できなかった場合には、更新の条件として、別途課題の提出が必要となります。この場合は、別途約 400 ユーロの費用が必要となります。

Q4：開催は東京が多いですが、他の地域での開催はありますか？

リアルでの開催は、東京にて行っておりますが、オンラインでの開催も随時行っております。

今後の予定は以下の Website からご確認ください。

<http://www.sustainavisionltd.com/training/>

Q5：予定している開催場所以外での開催は可能でしょうか？

東京以外での開催をご要望の場合、10名以上の人数の参加者が確保できる場合には、ご要望の地域にて開催いたします。詳細については、こちらから[お問合せ](#)ください。

Q6：会社内の CSR 担当者や各部門長を対象にして、英国 CMI 認定サステナビリティ（CSR）プラクティショナー資格講習を開催することは可能でしょうか？

各企業様や団体様に対して内部の方々向けに個別に英国 CMI 認定サステナビリティ（CSR）プラクティショナー資格講習を開催することは可能です。また、企業様の研修室での開催など出張も可能です。

都度お見積りさせていただきますので、詳細については、こちらから[お問合せ](#)ください。

Q7：受講後の「資格証明書」は、何時何所から発行交付されますでしょうか？また、申請から交付までの流れを教えてください。

講習後の課題の合格を持って資格が付与されます。講習後の課題の提出締切日（講習受講から2週間後）から、課題の審査と申請に約1か月程いただいております。その後、合格されている場合には、PDFでの資格証をEメールにて送付いたします。

そして、紙の資格証をご要望の有無を確認、ご要望をいただいた方のみ紙の資格証を発行いたします。紙の資格証の送付は、当社サステナビジョンから、ご指定の住所（会社あるいは自宅）に送付いたします。

Q8：申込み後のキャンセルはできますか？

キャンセルについては、[こちら](#)をご確認ください。

その他のお問合せにつきましては、[こちら](#)からお願いいたします。

以上